

令和5年度 第1回 球磨川水系学識者懇談会

【訂正内容】

訂正日：令和5年10月6日

訂正箇所：「資料1(10ページ)」

訂正前

訂正後

□：訂正箇所

2. 事業の必要性〔事業を巡る社会経済情勢等の変化〕

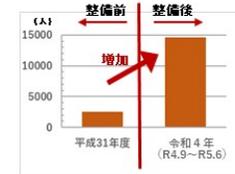
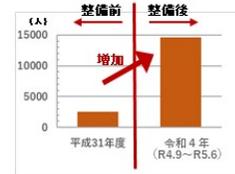
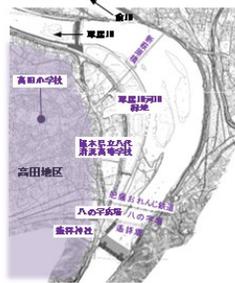
2. 事業の必要性〔事業を巡る社会経済情勢等の変化〕

4) 地域の推進体制、関連事業との整合

4) 地域の推進体制、関連事業との整合

- ◆ 熊本県水産振興課、熊本県水産研究センター、魚類の専門家など国土交通省で構成された「くまがわ勉強会」を平成19年度に設立し、球磨川下流地区におけるアユをはじめとする魚類等の生息環境の保全・再生に向けて、調整・連携・検討を継続的に実施している。
- ◆ 球磨川下流地区の維持管理について、地域ボランティアによる清掃活動が毎年実施されている。
- ◆ 有識者及び地元の漁協や商工会議所等による「球磨川下流域環境デザイン検討委員会」(H25～)で整備内容等の検討を行っている。また、地元の学校と共同で模型実験等を行う等、八代の治水・利水の学習が展開されている。
- ◆ 平成27年には、八代市が作成した、逢拝堰付近を含む新萩原橋周辺地区を対象とした「球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり計画」が正式に事業登録され、令和4年8月に「逢拝八の字広場」が完成し、八代市が維持管理を行っている。
- ◆ 「逢拝八の字広場」では、キャンプやリバーアクティビティ、花火大会の観覧などに多くの人に利用されている。
- ◆ 今後は、高田地区によるとんどや等の地域伝統行事の実施場所としての利用を予定している。また、既設ヘリポートと接続した空間を災害時の一時退避場所として利用することを予定している。

- ◆ 熊本県水産振興課、熊本県水産研究センター、魚類の専門家など国土交通省で構成された「くまがわ勉強会」を平成19年度に設立し、球磨川下流地区におけるアユをはじめとする魚類等の生息環境の保全・再生に向けて、調整・連携・検討を継続的に実施している。
- ◆ 球磨川下流地区の維持管理について、地域ボランティアによる清掃活動が毎年実施されている。
- ◆ 有識者及び地元の漁協や商工会議所、河川利用団体等と国土交通省で整備内容や利活用等の検討を行っている。また、地元の学校と共同で模型実験等を行う等、八代の治水・利水の学習が展開されている。
- ◆ 平成27年には、八代市が作成した、逢拝堰付近を含む新萩原橋周辺地区を対象とした「球磨川・新萩原橋周辺地区かわまちづくり計画」が正式に事業登録され、令和4年8月に「逢拝八の字広場」が完成し、八代市が維持管理を行っている。
- ◆ 「逢拝八の字広場」では、キャンプやリバーアクティビティ、花火大会の観覧などに多くの人に利用されている。
- ◆ 今後は、高田地区によるとんどや等の地域伝統行事の実施場所としての利用を予定している。また、既設ヘリポートと接続した空間を災害時の一時退避場所として利用することを予定している。



八の字広場の利用者数の変化
 平成31年度の利用者数は、「平成30-31年度球磨川水系河川空間利用実態調査業務」報告書より、8,300の利用者数を算出。令和4年(R4.9~R5.6)の利用者数は、八の字広場に設置した定点カメラのデータをもとに「河川周辺の国土調査マニュアル(河川空間利用実態調査編)」に準じ算出した。 10

八の字広場の利用者数の変化
 平成31年度の利用者数は、「平成30-31年度球磨川水系河川空間利用実態調査業務」報告書より、8,300の利用者数を算出。令和4年(R4.9~R5.6)の利用者数は、八の字広場に設置した定点カメラのデータをもとに「河川周辺の国土調査マニュアル(河川空間利用実態調査編)」に準じ算出した。 10



【訂正内容】
 ・文章を訂正

令和5年度 第1回 球磨川水系学識者懇談会

【訂正内容】

訂正日：令和5年10月6日

訂正箇所：「資料1(23ページ)」

訂正前

6. 対応方針(原案)

- ◆ 球磨川下流地区(自然再生)では、球磨川における魚類の代表種であるアユをはじめとする魚類の生息環境の保全・創出や、にぎわいのある新たな水辺空間の形成を目標に、河床整正等による瀬の再生及び高水敷の一部整正等を行うものである。
 - ◆ 球磨川坂本地区(水辺整備)では、水際へ安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、球磨川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、階段・坂路、管理用通路、護岸(船着場)を整備する。
 - ◆ 整備に対する地域の関心とニーズは高く、球磨川下流地区(自然再生)では、整備箇所の維持管理面での地域ボランティアの協力が得られており、更に「球磨川下流域環境デザイン検討委員会」、「くまがわ勉強会」等の会議を継続的に開催し、学識者、地域住民、漁業関係者等の理解・協力を得つつ、整備を進めている。また球磨川坂本地区(水辺整備)では、「球磨川坂本地区かわまちづくり実行委員会」等を通して、整備プランや利活用、維持管理の手法などについて協議を行うとともに、地域住民を主体とした活動が行われている。このことから、事業への理解と地域の協力体制は整っている。
 - ◆ 事業進捗率は、約64.7%(約19.0億円/約29.3億円)であり、令和13年度には事業完了予定である。
 - ◆ 費用対効果(B/C)については、全体事業2.0、残事業2.6となっている。
- 以上より、引き続き事業を継続することとしたい。

23

訂正

訂正後

6. 対応方針(原案)

- ◆ 球磨川下流地区(自然再生)では、球磨川における魚類の代表種であるアユをはじめとする魚類の生息環境の保全・創出や、にぎわいのある新たな水辺空間の形成を目標に、河床整正等による瀬の再生及び高水敷の一部整正等を行うものである。
 - ◆ 球磨川坂本地区(水辺整備)では、水際へ安全に近づけるよう水辺整備を行うことにより、球磨川を軸とした地域の活性化、川遊び等のイベント活動の場・観光拠点の場を創出するとともに、河川空間の安全性の向上、河川管理の円滑化を図るため、階段・坂路、管理用通路、護岸(船着場)を整備する。
 - ◆ 整備に対する地域の関心とニーズは高く、球磨川下流地区(自然再生)では、整備箇所の維持管理面での地域ボランティアの協力が得られており、更に、学識者、地域住民、漁協関係者、河川利用団体等による河川環境の保全・創出の議論を継続的に実施し、関係者の理解・協力を得つつ、整備を進めている。また球磨川坂本地区(水辺整備)では、「球磨川坂本地区かわまちづくり実行委員会」等を通して、整備プランや利活用、維持管理の手法などについて協議を行うとともに、地域住民を主体とした活動が行われている。このことから、事業への理解と地域の協力体制は整っている。
 - ◆ 事業進捗率は、約64.7%(約19.0億円/約29.3億円)であり、令和13年度には事業完了予定である。
 - ◆ 費用対効果(B/C)については、全体事業2.0、残事業2.6となっている。
- 以上より、引き続き事業を継続することとしたい。

23

【訂正内容】

・文章を訂正